

# 発行にあたって

平成23年3月11日(金) 14時46分に発生した東日本大震災から3年目を迎えました。千年に一度という大規模地震は、福島県をはじめとする多くの地域に未曾有の被害を及ぼしました。特に、福島県においては、東京電力福島第一原子力発電所の事故による避難が継続しており、さらには風評も今なお払拭されておられません。

一方、今回の震災においては、全国、そして海外の皆様から貴重なご支援と温かい応援の声を多くいただきました。インフラや流通等がストップし、情報も物資も人も十分でない厳しい状況の中、改めて人とのつながり、その温かさというものを痛感いたしました。ここに改めて厚く御礼を申し上げます。

さて、震災当時、福島県には、中国、フィリピン、韓国朝鮮をはじめとして、約1万人の外国人登録者がおりました。外国出身住民<sup>\*</sup>は、日本語の問題等から、災害時は災害弱者となるリスクが高いと言われていています。今回の災害時、当協会や市町村国際交流協会、日本語教室、大学等の関係機関は、彼らをどのようにサポートしたのでしょうか。また外国出身住民はどのような状況に置かれ、どのように行動したのでしょうか。これらのことについて、当時(平成23年3月11日～平成24年3月31日)の状況等を記録として残し、またその経験から得られた知見を、全国に、そして海外に発信していくことが、当協会に課せられた社会的使命であると考え、活動の記録を作成し、このたび発行することといたしました。

この報告書には、平成24年6月～12月にかけて実施した外国出身県民100人へのアンケート調査の結果も盛り込んでおります。調査対象者のうち70人には、聞き取り調査も行いましたが、書面ではわかり得ない様々な肉声が聞こえてきました。もちろんそれらが全ての外国出身住民の声を代表するものではありませんが、震災時における外国出身住民の思い・行動のドキュメントであり、その緊迫した声に是非耳を傾けていただきたいと思います。今回の調査に協力していただきました100人の外国出身住民の皆様がこの場を借りて御礼を申し上げます。

この記録が、今後の外国出身住民に対する災害対策の一助となり、震災時、全国のそして海外の皆様からいただいたご支援に対し、多少なりとも御恩返しとなることを祈念して発行の挨拶とさせていただきます。

平成25年7月

公益財団法人 福島県国際交流協会

<sup>\*</sup>「外国出身住民」：福島県内に暮らす外国出身、または外国籍の県民(帰化者及び日本生まれの外国籍者を含む)



飯坂けんか祭りに参加した外国出身住民  
(H23.10.5)



東日本大震災応援チャリティ  
国際理解講座で製作  
(H23.7.9)



震災直後の当協会事務所内の様子  
(H23.3.11 午後4時頃)